

中野区立第二中学校学校だより

若葉 第239号



令和4年6月2日

令和4年度 第2号
発行者：校長 曾我 竜也

令和4年度 第76回運動会 スローガン

「上下一心」(じょうかいつしん)

- 意味：身分や地位を問わず団結すること。地位が上にある者も、その下に就く者も、皆が心を一にして事に当たれば、難事を乗り越えられるという意味。類語「一致団結」
- 由来：出典「淮南子（えなんじ）」詮言訓（詮言訓）
国を治める者と人民とが心を一にすること。

新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に備え、東京都より4月25日（月）からリバウンド警戒期間が発令され、5月22日（日）をもって解除となりました。しかし、感染症対策への対応の概要は、これまでどおり継続されているのが学校現場の現状です。

そのような中、6月4日（土）に第76回運動会が実施される運びとなりました。保護者の皆様には、5/27付で配布させていただいた「運動会のお知らせ」のとおり、国、東京都及び中野区教育委員会から示された新型コロナウイルス感染症対策に準じて開催されることをご承知おきの上で参加の判断をお願いいたします。

さて、今年度の運動会は保護者の方々への入場制限は行われますが、学校の運営体制は、コロナ禍前の全種目実施の形態（フルバージョン）で行われます。令和2年、3年と規制の中で行われてきた運動会なので、生徒に至っては、3年生を筆頭に全学年が経験したことがありません。また、令和2年度以降に本校へ異動されてきた先生方にとっても、全種目での実施経験がありません。そういった背景の中で、各学年から選出された「運動会実行委員」の生徒と、教員による「体育行事委員会」が中心となり、運動会の企画・運営が行われています。

生徒も教員も、全体像がつかめないうちで、ある意味手探りで進められている運動会準備ですが、そのような中、生徒たち（運動会実行委員会）が選出した第76回運動会のスローガンは「上下一心」でした。正に、すべての生徒と教員が心に抱える「得体の知れない不安」が払拭されるスローガンであると感心しています。

この2年間を振り返ると、学校教育におけるコロナ禍への対応は、これまでの学校教育を見直す機会となりました。学習面においては、日本が世界から遅れを取っていたICTが導入されたことが一番の成果でしょう。これにより、教師主導の教授型（教え込み）授業から、生徒個々の学習状況に応じた個別最適な学びと、主体的・対話的な深い学びへの変革が進むものと思われまます。（もちろん、教授型の授業も単元の内容によっては必要ではあります。）つまり、教師は授業のファシリテーター役となり、子供たちは与えられた課題の解決に向けてICTを有効活用するとともに、他者の考えも共有し、最終的には自分の力で課題を解決していく術を身に付けていくといった考え方です。今後の課題は同時双方向型のオンライン授業の構築となりますが、世界の先進事例を基に克服することは可能と考えます。

生徒指導においては、「いじめの減少」があげられます。いじめ件数の減少は対外的には喜ばしいことですが、コロナ禍により生徒相互のコミュニケーションが希薄になった事が減少の背景にあることを考えると、素直に喜ぶ事は出来ない気もします。いじめの構造とは違いますが、価値観の違う人間が対峙する社会（学校）の中において、意見の相違があるのは当然で、互いの意見を主張することで、そのたびにぶつかり合い、けんかをし、それでも、お互いの想いを知ることで相互理解が深まり、最終的に相手を認めることができる経験は貴重なものだと思います。また、生活指導における最大の課題は「不登校」の増加です。コロナ禍による予測不能な社会の到来が、少なからずとも社会生活と家庭環境に不安要素を与え、その影響が子供の心に波及していることは否めません。最後に学校行事です。中野区に限らず、どの中学校でも「運動会」と「合唱コンクール」は学校のメイン行事です。結論から言うと学校行事は教師にとっても生徒にとっても望ましい人間関係の構築に必要不可欠です。学校全体で目標を共有し、ひとつのゴールに向かって突き進むことで、集団への所属感や連帯感を深

め、協力してよりよい学校生活を築こうとする主体的・実践的な態度を身に付けることが出来るものと考えます。また、教師と生徒が授業以外で心を通じ合わせる、特に担任にとってはクラスの生徒たちとの距離を縮める必要不可欠な機会でもあります。

昨年度まで所属していた中学校でのことですが、教員生活で初めて「涙の無い」卒業式を体験しました。卒業生たちは、2年間のコロナ禍の中で、さまざまな行事が縮小、あるいは中止され、3回の延期を重ねた修学旅行も最終的には中止となりました。日常といえば、感染症対策のため、会話（コミュニケーション）も制限、仲間との接触も禁止、給食も前を向いての黙食、マスクの着用義務から、生徒も教師も互いの素顔に触れる機会も少ない中で迎えた卒業式でした。卒業生の3年間の思い出の葉には、クラス、学年、そして先生方と一緒に何かをやり遂げた記憶があまり思い浮かばないといった記述が多数見受けられました。これが「涙の無い」卒業式の理由なのかと考え、教師として、本当に申し訳ない事をしたと、自責の念に駆られました。コロナ禍の中であっても、生徒たちに対して、もっと出来ることがあったのではないかと猛省する日々が続いたことを思い出します。

さて、コロナ禍が徐々に収束に向かい始めた中で実施される「第76回運動会」ですが、運動会終了後に生徒たちはどのような感情を抱くのでしょうか。そして、その様な生徒たちとの取組を通じて、先生方はどのような想いを描くのでしょうか。前述した、生徒と教員が心に抱える「得体の知れない不安」とは、生徒も教師も、「意識の上で、他者とつながっているという感情、同じ仲間であるという意識」、つまり、この2年間コロナ禍の中で様々な教育活動が制限される中、生徒も教師も経験する事が難しかった「連帯感」、その連帯感の希薄さに対する不安なのではないでしょうか。「連帯感」は生徒と教師がチームとなり、同じ目標や考えのもと一つにまとまり、力を合わせているときに共有される感覚です。「連帯感」は、学校行事の醍醐味とも言えます。

運動会のスローガン「上下一心」が示す、教師も生徒も心をつなげて学校行事（運動会）に向き合うことで、困難を乗り越えられるものと信じています。保護者の皆様もご声援をお願いいたします。

各学年運動会練習風景



【第1学年 リレー練習】



【第2学年 入場練習】



【第3学年 よさこい練習】

■ 保護者の皆様へ（運動会観戦等確認事項）

1 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

- ・保護者の参観は1家族2名までに限らせていただきます。（入れ替えによる参観者の変更は可能です）
- ・事前に配布した検温記録票に氏名と朝の体温を記入し、名札の裏に入れ、受付を済ませてください。
- ・体調がすぐれない、微熱や風邪症状のある方は、観戦をご遠慮ください。
- ・密を解消するため、原則として、自分のお子様の競技のみを観戦していただけるようご協力ください。
- ・当日はアリーナを開放いたしますので、他学年の競技の際には待機場所としてご利用ください。
*アリーナにはモニターとパイプ椅子を設置し、校庭で行われている競技をご覧いただけます。
*アリーナでは水分補給のみとし、食事についてはご遠慮ください。（ゴミはお持ち帰りください）

2 その他

- ・午前8：30に生徒通用門を開けます。ご入場は時間厳守でお願いいたします。
- ・保護者の導線は、生徒通用門（入口）→来客・教職員用玄関（出口）→アリーナの経路をご利用ください。
- ・自転車は、第2グラウンドへの駐輪をお願いします。路上駐輪は禁止です。整列駐輪にご協力ください。
- ・写真、ビデオ撮影は、競技・演技・生徒指導上の妨げにならないようお願いいたします。
- ・学校敷地内はすべて禁煙です。（路上での喫煙もご遠慮ください。）
- ・保護者用トイレは、校舎内1階の第二理科室前をご利用ください。
- ・今後の感染状況によっては、各家庭の観戦人数を制限させていただく場合があります。